

よび血中サイロキンを測る Tetra-Tab である。

両キットとも操作は簡単で処理時間は短かく、指定処理時間に余裕があり、精度がよく特に再現性に優れている。

トリオソルブ、レゾマット T₄ との相関はそれぞれ 0.943, 0.958 と高いものであった。

正常範囲は Tri-Tab 31.46% ~ 46.64% Tetra-Tab 4.36 µg/dl ~ 10.16 µg/dl であった。

日内変動を見るため、6例の患者のトリグリセライド、トリオソルブ、レゾマット T₄、Tri-Tab、Tetra-Tab の値を測定した。

6例の平均で比較して、トリグリセライドには高い有意差のあるこのグループで、トリオソルブ、レゾマット T₄ に有意差が認められたが、Tri-Tab、Tetra-Tab は認められなかった。

13. Radioimmunoassay による血中サイロキシン測定法について (第1報)

田口 英雄 南 良次
萩原 康司 沖田 芳夫
(社会保険中央病院・放)

現在、甲状腺機能検査法として、Isotope を利用した血中 Triiodothyronine (T₃)、Thyroxine (T₄) 検査法が広く普及している。Thyroxine は、Thyroxine 結合蛋白のうち Globulin と最も強く結合しており血中濃度も多いため、早くから定量化されている。1966年 Kaplan 等によってレジソ・スポンジの使用による Thyroxine 測定法が開発されて以来、今日まで routine 化している。今回われわれは血中から Thyroxine を抽出せずに、Radioimmunoassay により血清を直接、検体として測定できる T₄-RIA kit を入手し、基礎的検討をしたので報告する。

14. 甲状腺機能亢進症で治療中の症例に対する in vitro RI 検査による甲状腺機能検査成績の検討

古舘 正従
(北大・放)
杉山 征子 三上 綾子
(室蘭新日鉄病院)

室蘭新日鉄病院放射線科甲状腺外来を受診した正常甲状腺機能者42例を対照とし、甲状腺機能亢進症で通院中の 66 例の患者について、Triosorb M125, T₄-RIA, T₃-RIA および TSH キット「第一」の4検査を同時測定し得た153件の検体についてその成績を検討した。治療前は TSH 除き、全て明らかな高値を示した。Mercazol 投与により甲状腺機能変動する時、T₃・RSU T₄, T₃ は略に parallel に変動したが、Discrepancy を呈する場合は T₃ が比較的多かった。これは T₃ が最も鋭敏に変動するためかと思われた。T₃・RSU が著るしく低値を示した8例中5例が妊娠の症例であった。妊娠症例の一部で T₄ 高値がみられた。Mercazol の比較的大量投与時一過性に TSH の軽度上昇のみられた症例もあった。上記4検査の同時測定は治療経過の観察に非常に有用であった。

15. 血行再建における RI Angiography の診断的意義

北野 明宣 中西 昌美
佐野 文男 西村 昭男
葛西 洋一
(北大・外)
小倉 浩夫 森田 穰
古舘 正従 入江 五朗
(放)

末梢血管疾患に ^{99m}Tc を静注し、RI アンギオ、static image、動的 image をとり術前、術後の診断、特に poor risk 患者に有効であった。教室における過去1年間の RI アンギオ施行例は、腹部大動脈瘤3例、大動脈一腸骨動脈閉塞6例、外傷性大